

船舶事故等調査報告書

平成21年10月29日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故等番号	2009横第174号	
事故等種類	乗揚	
発生日時	平成21年4月26日 07時50分ごろ	
発生場所	京浜港川崎区第1区 水江運河内 水江信号所から真方位273°260m付近 (概位 北緯35°30.95′ 東経139°44.60′)	
事故等調査の経過	平成21年7月3日、本事故の調査を担当する主管調査官(横浜事務所)を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。	
事実情報	船種船名、総トン数 貨物船 第二成和丸、495トン 船舶番号、船舶所有者等 133686、有限会社和晃海運	
乗組員等に関する情報	船長、五級海技士(航海)	
死傷者等	なし	
損傷	推進器翼4枚曲損、船底擦過傷	
事故等の経過	本船は、船長ほか4人が乗り組み、スワゾール約400トンを積載し、船首約1.5m、船尾約3.4mの喫水で、京浜港川崎区第1区水江運河を速力約4~5ノットで西進中、右舷側岸壁に船尾着けで着岸している他船の錨鎖から離れるため、水江運河の中央より左寄りを通航しようとした際、平成21年4月26日07時50分ごろ、船底に衝撃を感じた。 船長は、機関を停止して、付近海面を調べたが、流木等もなく、油の流出も見られなかったため、そのまま着岸した。	
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 南西、風力 4、視界 良好 海象：潮汐 下げ潮中央期	
分析	乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	あり なし なし 本船は、京浜港川崎区第1区の水江運河を西進中、右舷側岸壁に船尾着けで着岸している他船の錨鎖から離れるよう同運河の左寄りを通航しようとした際、同運河内の水深についての調査を適切に行っていなかったため、浅所に乗り揚げた可能性があると考えられる。
原因	本事故は、本船が京浜港川崎区第1区の水江運河を西進中、右舷側岸壁に船尾着けで着岸中の他船の錨鎖から離れるよう同運河の左側を通航しようとした際、同運河内の水深についての調査を適切に行っていなかったため、浅所に乗り揚げたことにより発生した可能性があると考えられる。	